

全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会（第52回）
 における事例報告（Ⅱ）

糸井 泰博 渡 昭博†

全国食肉衛生検査所協議会病理部会事務局群馬県北部食肉衛生検査所
 (〒377-0027 渋川市金井2842-33)

Proceedings of the Slide-Seminar held by the National Meat Inspection Office
 Conference Study Group (52th) Part II

Yasuhiro ITOI and Akihiro WATARI †

Hokubu Meat Inspection Office of Gunma Prefecture, 2842-33 Kanai, Shibukawashi, 377-0027, Japan

(2006年10月31日受付・2008年11月20日受理)

9 牛の腹腔内播種性肉芽腫性炎

[川口恵美 (宮崎県)]

症例：牛（黒毛和種），雌，75カ月。

臨床的事項：一般畜として搬入，削瘦していた。

肉眼所見：腹水貯留を伴って壁側腹膜，横隔膜腹側面，
 腹腔内の臓器漿膜面に，播種性に小豆大から大豆大の黄
 白色腫瘤を認めた。

組織所見：腫瘤は結合組織に被われ，多数のアステロ
 イド体を認めた。アステロイド体はおおむね好酸性で，
 中心部はPAS染色陽性，周囲はコッサ染色陽性であっ
 た。部位によってアステロイド体周囲に著しい好酸球浸
 潤がみられ，顆粒を放出している像も確認された。ま
 た，好中球，類上皮細胞および多核巨細胞等も浸潤し，
 多核巨細胞の一部には，アステロイド体を貪食している
 所見もみられた。グラム染色および抗酸菌染色で菌は確
 認できなかった。アステロイド体は，条虫抗体（ヒトマ
 ンソン孤虫症陽性血清）を用いた免疫組織化学的染色で
 弱陽性に染まったが，病因が寄生虫によるものと診断す
 るには至らなかった。

診断名：石灰化したアステロイド体を伴う播種性肉芽
 腫性腹膜炎

討議：著しい石灰化および好酸球の浸潤から寄生虫感
 染を疑ったが，細菌感染による肉芽腫性炎という意見が
 出された。病巣が古いため，菌が消失している可能性も
 考えられたが，グラム染色でグラム陰性菌の確認は困難
 であり，存在しないとまではいえず，一般の細菌染色も
 行うべきとの助言があった。

※以降、詳しくは日本獣医師会雑誌Vol. 62 No. 4をご覧ください。

† 連絡責任者：渡 昭博（群馬県食肉衛生検査所）

〒370-1103 佐波郡玉村町大字樋越305-7

☎0270-65-2135 FAX 0270-65-2869

E-mail : watari-a@pref.gunma.jp

† Correspondence to : Akihiro WATARI (Meat Inspection Office of Gunma Prefecture)

305-7 Higoshi, Tamamuramachi, Sawagun, 370-1103, Japan

TEL 0270-65-2135 FAX 0270-65-2869 E-mail : watari-a@pref.gunma.jp